



KOBE UNIVERSITY RESEARCH CENTER FOR URBAN SAFETY AND SECURITY

神戸大学都市安全研究センター

第4回 震災復興・災害科学シンポジウム

2024年1月20日(土)

13:00 - 16:40

オンライン開催

プログラム・講演要旨



神戸大学 都市安全研究センター

<http://www.rcuss.kobe-u.ac.jp>

プログラム

13:00 - 13:05 開会挨拶 滝口 哲也 (神戸大学都市安全研究センター センター長)

特別講演 (発表30分、質疑10分)

13:05 - 13:45 災害への適応的心理・行動特性：災害を生きる力の8因子
杉浦 元亮 (東北大学加齢医学研究所/災害科学国際研究所 教授)

13:45 - 13:55 休憩

公募研究発表 (発表20分、質疑5分)

13:55 - 14:20 災害廃棄物に関する普及啓発・広報における経験知の活用
田畑 智博 (神戸大学大学院人間発達環境学研究科 准教授)

14:20 - 14:45 海域で発生する地震による地震波の伝播の数値シミュレーション
筧 楽麿 (神戸大学大学院理学研究科 助教)

14:45 - 15:10 東日本大震災被災地の復興・まちづくりのにない手の変化に関する考察
-岩手県大船渡市中赤崎地区を事例に-
井口 克郎 (神戸大学大学院人間発達環境学研究科 准教授)

15:10 - 15:20 休憩

15:20 - 15:45 マリンハザード研究 ～津波からの船舶の避難～
林 美鶴 (神戸大学内海域環境教育研究センター 准教授)

15:45 - 16:10 2023年トルコ地震における地表地震断層と液状化によるインフラ被害
鋤田 泰子 (神戸大学大学院工学研究科 教授)

16:10 - 16:35 大震災の映像資料公開をめぐって -阪神・淡路大震災の記憶継承のために
奥村 弘 (神戸大学大学院人文学研究科・都市安全研究センター災害文化
・地域歴史資料学研究分野 教授)

16:35 - 16:40 閉会挨拶 近藤 民代 (神戸大学都市安全研究センター 副センター長)

講演要旨

災害への適応的心理・行動特性：災害を生きる力の8因子

杉浦 元亮（東北大学加齢医学研究所/災害科学国際研究所 教授）

発災から復興まで、災害の多様な文脈で、同じ状況でも危機回避や困難克服の姿勢には個人差があります。災害への適応的対応に資する心理・行動特性「災害を生きる力」について、東日本大震災(2011)の被災者を対象とした調査で、主要な8因子（リーダーシップ・問題解決・愛他性・頑固さ・エチケット・感情制御・自己超越・能動的健康）が抽出されました。開発した質問紙尺度を用いて行ってきた、様々な調査、行動実験、心理・脳基盤の解明、災害・一般教育への応用例について共有します。

災害廃棄物に関する普及啓発・広報における経験知の活用

田畑 智博（神戸大学大学院人間発達環境学研究科 准教授）

平時のうちから、地域住民に対して災害廃棄物の撤去・分別・運搬に関する普及啓発・広報活動を行うことで、発災後のスムーズな災害廃棄物処理が期待できる。本研究は、被災者等が有する災害廃棄物の撤去・処理等に従事した経験を災害廃棄物の経験知として整理し、自治体の災害廃棄物対策への活用方法を考察した。過去5年以内で災害廃棄物の撤去・処理等に従事した経験を有する全国の被災者等を対象としたアンケート調査を実施し、当時の被災状況、自助で対応できた場面、共助に頼らざるを得なかった場面、苦労した点や工夫した点等を尋ねた。

海域で発生する地震による地震波の伝播の数値シミュレーション

筧 楽磨（神戸大学大学院理学研究科 助教）

地震の際にわれわれが感じるゆれは、震源で発生した弾性波が周囲に伝播し地表に達したものです。ある地震による、ある地点でのゆれ（地震波形）の特徴が、どのような因子によって作り上げられているのかを詳しく調べることは、地震学の重要な課題です。この講演では、海域で発生する地震を対象に、計算機の中で地震波の伝播を再現し（=数値シミュレーション）、震源の位置や深さ、地下構造が、どのように地震波形に影響を与えるのかを、できるだけわかりやすくお伝えしたいと思います。

東日本大震災被災地の復興・まちづくりの不在の手の変化に関する考察

－岩手県大船渡市中赤崎地区を事例に－

井口 克郎（神戸大学大学院人間発達環境学研究科 准教授）

#発表者は研究メンバーから選出すること。

報告者らは岩手県大船渡市中赤崎地区において、震災直後から地元住民団体と復興のまちづくりに関する活動を共にしてきた。2018年頃には防災集団移転促進事業による高台住居移転にほぼめどが付き、移転先での生活課題に対応するコミュニティづくりが課題となってきた矢先、2020年初頭からのCovid-19の影響によってそれは足踏みを余儀なくされた。他方、コロナ後には従来のまちづくりの中核であった高齢層に加えて、従来にも増して若年層の地域づくりへの主体的参加の芽が見られるなど変化も起きてきている。本報告ではその現状について報告する。

マリンハザード研究 ～津波からの船舶の避難～

林 美鶴（神戸大学内海域環境教育研究センター 准教授）

南海トラフなどの巨大地震が発生すると、重要港湾を抱える大阪湾などにも津波が来襲する。船舶の津波からの避難は船長や運航管理者の判断に委ねられているため、事業社は事前にマニュアルを作成しておく必要

がある。船舶に対する津波の影響として、到達時間、水位変動、水平流速が問題になるが、津波渦はあまり考慮されていない。本講演では、これまでの津波マリンハザード研究で得られた船舶に対する津波リスクについて紹介する。

2023年トルコ地震における地表地震断層と液状化によるインフラ被害

鎌田 泰子 (神戸大学大学院工学研究科 教授)

2023年2月6日にトルコ南部を震源として発生したMw7.7 (AFAD) の地震では、東アナトリア断層の一部が左横すべりで運動し、トルコ南部では300 kmにもわたり断層線に沿って各所で地表地震断層が現れた。断層を横断する住家やインフラ施設の被害について現地調査を行った。さらに、アンタキヤの東部に流れるアシ川 (別名オロンテス川) 周辺でも旧河道に沿って広域な液状化とそれによる構造物被害が発生した。本報告では視察結果について報告をする。

大震災の映像資料公開をめぐって – 阪神・淡路大震災の記憶継承のために

奥村 弘 (神戸大学大学院人文学研究科・都市安全研究センター災害文化・地域歴史資料学研究分野 教授)

都市安全研究センターの協力研究部門である災害文化・地域歴史資料学研究分野では、神戸大学附属図書館震災文庫、人文学研究科地域連携センター、株式会社サンテレビジョンと協働して、阪神・淡路大震災でサンテレビが撮影した映像資料の公開事業を進めている。大震災の記憶の継承においてプロのカメラマンが震災直後から撮影を進めた映像は、極めて重要な資料である。しかしながら映像資料を大学で公開するにあたっては、肖像権や個人情報保護等様々な課題を乗り越える必要があった。本報告では、大震災の記憶の継承という観点から、映像資料の大学での公開をめぐる課題とその意味について報告したい。